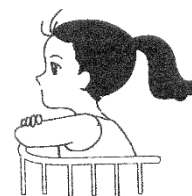


## 第26回全国のつどい in 和歌山

### 実行委員会ニュース NO.4



第26回登校拒否・不登校問題全国のつどい in 和歌山 実行委員会事務局 発行 2025. 6. 24  
事務局連絡先 〒640-8319 和歌山県和歌山市手平 6-112-1 新堀作業所横丁 NPO 法人エルシティーオ  
TEL 073-432-2170 FAX 073-424-5449 メールアドレス tsudoi2025@npoeisio.com

## 要項確定、分科会づくりも開始 第26回全国のつどい第4回実行委員会

梅雨入り直前の小雨も降る中、東京、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山から41人が集まり、第4回実行委員会が開かれました。(6月8日和歌山ビッグ愛りいぶる会議室)

恒例の自己紹介のあとは、要項の最終確定に向けて、討議をおこないました。また、分科会についての説明もあり、つどい本番に向けて、一步步歩を進めています。



## ミニ学習会 越野章史さん「今、学校で起きていること」

世界で最初に、みんなが学校に行かないといけなと決めたのは誰? という問いから研究をしてきました。フランス革命の時代、18 世紀に革命政府の中でみんなが行く学校の計画を立てたのがコンドルセ。日本では明治直後、今から 150 年くらい前に導入。それまではみんなが行く学校というものはありませんでした。

「近代学校」がはじまり、みんなが行かないといけなとになって、学校へ行く子どもの数が爆発的に増え、教室も先生も足りない状況の下、19 世紀のイギリスで「画期的な」教育方法が発見・導入されました。それは、生徒の中から優秀な人を何人か選んで助手をさせる方法(助教法)。助教が生徒たちを見張り、チェックし、規律に従わせる。また学校建築はパノプティコン(一望監視装置、監視を目的とした建築構造)として設計されました。一般的な校舎は、北側廊下、南に教室、真ん中に階段。階段の位置から、どこで騒ぎが起きているか一目で分かる。ある建築学の先生が校舎について子どもにアンケートをとったところ、子どもから出た一番大きな意見は「ちょっと隠れる場所がほしい」だったそうです。学校ではいつも誰かに見られているかもしれない状況で、子どもたちはずっと緊張状態にいるのかもしれない。

また学校では、「決められた時間」に「決められたこと」をするのが当たり前です。時間割が決まっています、チャイムで区切られる。子どもが学びを続けたくても、チャイムで切られます。就学前の子は学校を楽しみにしていて、中には勉強が楽しみだという声もあります。勉強ができることに、子どもたちは素朴に憧れている。ところが高学年の子に聞くと、勉強が好きというのは少数派。知りたいこと・学びたいことを学ぶのではなく、決められたスケジュールに従って学ばされることで、「勉強嫌い」にさせられているのではないのでしょうか。

学校は何のためにあるのでしょうか。戦後日本では、学校教育の目的は憲法と教育基本法から読み取ることができます。憲法の理念を実現するという意味では、平和と民主主義と基本的人権の尊重。また教基法1条では教育の目的として「人格の完成」を挙げています。「人格」とは個性やその人らしさのことです。つまり一人ひとりの個性を存分に伸ばし、引き出していくことです。そういう教育の目的は今、意識されているのでしょうか? いい成績でいい学校に行き、いい会社に、となっているのが現実。目的と現実の乖離、これを引き起こしたのが、学習指導要領そのものではと。

教基法ができた 1947 年に最初の学習指導要領が出ましたが、そこには「試案」と記載され、現場の子どもの実態や地域社会の実態にあわせて、創意工夫を持ってやってください、と書かれていました。ところが11年後の58年から文部省は「法的拘束力がある」と主張し、公務員である先生たちは従

わざるをえなくなった。58・68 年の指導要領は「重化学工業を中心とした高度成長期の経済を担う人材だから、理数系を高度に」ということを意識していた。この頃から学校での「人材育成」という考え方が定着していきます。この(68 年の)指導要領の下、70 年代に「落ちこぼれ」問題が発生する。

そうした中、70 年代後半には不登校と校内暴力が問題化します。同時に、子どもの荒れをなんとか抑えようと教師が管理と暴力を用いるようになります。意味の分からない校則(靴下のワンポイントとか)をつくり、守れない人が不良化していく兆候だと、その段階で厳しく(体罰こみで)指導する。そうした中、校内暴力は沈静化していきますが、不登校は高止まり、いじめが増加していくことになります。これらはつまり、「高度な」学習指導要領が押しつけられたことの「副作用」だったわけです。

では、高度成長を支える人材を育てるという本来の目的は達成できたのか。できたはずがありません。この世代が社会に出たのは 80 年代末で、高度成長は 15 年前に終わっています。直後には就職氷河期もきて、活躍の場すらなかった。

今でも教育の中身に経済界の意向は反映されていて、英語や ICT が強調されるのは「グローバル人材」育成のためです。今の経済の状況を見て、こういう人材が必要、と。ですが、今の子が社会に出るには最低でも十数年かかります。20 年後に今と同じトレンドが続いているかは、誰にもわからない。それなのに、小学校に無理矢理英語をねじこむ必要があるのでしょうか？

また、今の学校は「あれもこれも」詰め込んだ結果、「カリキュラムオーバーロード(過積載)」と言われる状態になっています。毎日 6 時間授業を詰め込んでも足りないくらいで、子どもも保護者も苦しんでいる。先生も授業が多すぎるので、残業無しでは次の授業の準備ができません。

こういう日本の子どもがおかれている状況を指摘していたのが、国連子どもの権利委員会。競争的な環境で、子どもたちがストレスにさらされていることなどを、過去 4 度日本政府に勧告しているが、政府は対応していません。この状況を変えていくためには、少しでも多くの人がこの状況はおかしいと声をあげていかないといけない。子どもたちも苦しんでいるので、子どもたちの声に耳を傾け、代弁していくことで、教育を変えていかないと。

※詳細は全国連ニュース9月号に掲載予定

## 実行委員長あいさつ 越野章史さん(和歌山大学准教授)

午前中からご参加の方も、午後からご参加の方も、遠いところ、お休みの日にありがとうございます。今日の一番の目玉は要項の確定です。小さなことでも結構ですので闊達なご意見をお願いします。10月のつどいをみなさんで作っていきたいと思います。

### 第4回実行委員会で決まったこと

- 記念講演の演題が、「立ち止まる子どもたち～子どもたちにとって本当に大切なことは～」に決まりました。
- 一部の文言について事務局一任の部分もありますが、要項全体について、最終確認を行い承認されました。



### 話し合われたこと(★は説明や提案、☆は提案のあと出た意見などです)

#### 1 要項について

6 月 24 日発送の全国連ニュースに、要項を同封して、全国の会員のみなさんへ送ります。また、全国連のホームページにも掲載します。今後は、この要項を使って、各地でつどいを広げていくことになります。

【1 頁目】よびかけ文、とき・ところ、記念講演、主催、後援、「全国連絡会」の説明文、問い合わせ先

★全国連のホームページ内にある「つどい」ページへ飛ぶ URL を 1 頁目上部に入れました。

★記念講演について、講師の馬場さんとやり取りをして、仮題として入れていた演題に確定しました。

★1 頁目の下の部分に少し余白スペースを作っていますので、各地の親の会の連絡先などを入れて使用していただけます。

- 【2頁目】 日程、はじめのつどい(オープニング・あいさつ・記念講演)、基礎講座、25 回参加者の声
- ★オープニングのアンサンブル・ミカニエさんからいただいたプロフィールに差し替えました。
  - ★基礎講座の「家庭で」の説明文について、前回ご意見をいただいた点を講師に確認し、修正しました。
  - ★受付時間については、表の下に書いてある時間(終了時間と間違うので)を消します。
- 【3頁目】 分科会、ひろば、その他
- ★分科会の説明について、冒頭の案内文を「分科会(テーマ別交流)は出入り自由です。」にしました。
  - ★「大交流会」と「おわりのつどい」の説明を3頁に記載しました。
- 【4頁目】 参加にあたってのご案内、宿泊、会場へのアクセス、保育、合理的配慮
- ★大交流会について、費用説明のところに場所「アバローム紀の国」を追記しました。大交流会の説明は3頁目に移動させています。アレルギー対応については、ご相談くださいとし、キャンセル料について発生する場合がありますとの文言にしています。
  - ★大交流会、26日昼食のところに入っていた「申込締切後の受付はできかねます」という文言を削除しました。迷って申込をする人・直前で参加を決める人に対して、事務局としては、可能な限り受け入れられるようにしたいと思っています。
  - ★26日の昼食はお茶付き800円となります。
  - ★送金方法のところをわかりやすく修正しました。
  - ★宿泊について、観光協会でも検索いただけます、としました。
  - ★合理的配慮について、県の担当課とも相談して文案を作成しました。また、具体的に私たちが配慮できること(手話通訳、場内誘導、座席の確保等)を記載しました。
- ☆振り込みのところ、ゆうちょ口座を持っている方と持っていない方になっているが、持っているかどうかに限らず、ゆうちょからの振込とゆうちょ以外の振込に分かれると思うので、表記を修正しては。
- ★修正します。

## 2 分科会について

- ★次回の実行委員会から本格的に分科会づくりの打ち合わせが始まります。分科会は、地域の親の会の全国版で、参加者ひとり一人の思いを大切に、分科会づくりをしています。また、親・教師・相談員・研究者(専門家)・本人(当事者)・学生など、いろいろな立場の方が参加しますが、参加者はすべて対等平等です。
  - ★分科会の中での役割がいくつかあり(連絡係、司会、記録、速報、お弁当、まとめ)、これについては、今後の実行委員会で集まって話し合う中で役割分担をしていきます。
- ☆組合や他団体にお手伝いを呼びかける関係で、資料代の件は確認しておいた方がいい。前回の京都では、資料代を払って参加してもらう場合は分科会でお手伝い、資料代を払わずの方は外での道案内などと分けた。今回も検討を。
- ★参加なのか、動員的なお手伝いなのかは、今後話をしていきます。



## 3 各手続き等の進捗状況

- ★後援申請手続きについては、下記のとおり。
- 【後援：承認済】・和歌山県、和歌山県教委、和歌山市、和歌山市教委
- ・和歌山大学教育学部、和歌山信愛大学、東京医療保健大学和歌山看護学部
  - ・和歌山県立医科大学(実行委員会後に承認されました)
- ★協賛依頼については、要項が完成したら、全国団体などに依頼文をつけて発送予定。
  - ★助成金については、県の観光連盟、市の観光課のものを申請予定。つどい前後の宿泊数で助成金が出る。詳細はつどい申し込み後の参加証発送の際に説明を入れることになる。また、実行委員会でも詳細についてお知らせしていく。教育公務員弘済会の助成金も申し込む予定。

## 4 事務局体制について

- ★事務局次長に林堂さん(和歌山)が追加になりました。



-